



自動車サイバーセキュリティサービス

現在、自動車のサイバーセキュリティに関する問題は、ユーザーの身体的安全、データおよびプライバシー保護の両面を脅かす現実的なものとなっています。さらに、サイバーセキュリティは自動車の「見えない」品質であり、パッシブセーフティと同様に事象が発生した後にしかユーザーは認識することができません。ユーザーと車両システムの保護を確実にするため、自動車業界ではサイバーセキュリティが導入されています。実際、標準化されたガイドラインの必要性に対応するため、近年、新しい規格や法規制が策定されています。IDIADAには、自動車サイバーセキュリティの専門家チームがあり、メーカーや関係者のサイバーセキュリティシステムの開発や検証をサポートするための複数のサービスを提供しています。

車両開発プロジェクト

IDIADA は、組織内または特定の活動における新たなサイバーセキュリティプロセスの開発を必要とする活動を主導またはサポートすることが可能です。また、ISO/SAE 21434 および UN ECE R-155 に基づき、以下の活動を実施しています。

- ・ サイバーセキュリティ管理システム(CSMS)の開発
- ・ サイバーセキュリティ設計:アーキテクチャ、ネットワーク、方法、ガイドライン
- ・ ワイヤレス接続(OTA)のセキュリティとその実装手順
- ・ サイバーセキュリティ・インターフェイス・アグリーメント(CIA)の管理
- ・ 脅威分析とリスクアセスメント(TARA)の実行
- ・ サイバーセキュリティのコンセプトと必要条件定義
- ・ インシデントとプロセス開発のモニタリング



法規および規格の遵守

IDIADAは、R-155(サイバーセキュリティ)及びR-156(ソフトウェアアップデート)の認証・審査を行うスペインの型式認証機関(TAA)により認定されたテクニカルサービス(TS)です。また ISO/SAE 21434 および ISO 24089 への適合監査・認証も行うことができます。

IDIADA は、UNECE R-155 及び R-156 規制の解釈及びその理解に関する支援サービスを提供しており、また法規で定められた要件に適合する上での課題を解決するためのロードマップについても提案することが可能です。また、これらの法規には、2つの異なるアセスメントが考慮されています。

一方は、サイバーセキュリティとソフトウェアアップデートの要件に対応する組織だったプロセス、つまりサイバーセキュリティ管理システム(CSMS)とソフトウェアアップデート管理システム(SUMS)に関連する要件であり、もう一方は、TARAの実行と実装、サイバーセキュリティ方策、試験およびモニタリングを検証するための要件を含む車両型式認証です。

テストと検証

IDIADAは、コネクテッドカーのサイバーセキュリティを評価するツール(CyberBox)を開発しました。このツールは、車両におけるコネクティビティ(Wi-Fi、Bluetooth、RKE、TPMS、OBDII、GPS、APPS)の脆弱性を試験するものです。

開発したソフトウェアにより、このツールはペネトレーションテストを自動化し、事前に設定された制御シナリオに沿って車両を評価するのに必要な時間を最大限に活用することができます。また、それぞれのテストで有効な結果が保証されるとともに、テストを実施したすべての車両のセキュリティレベルを比較することができます。

ペネトレーションテストには、なりすまし信号、ポートスキャン、ラジオ波のリプレイ、ファズテストなど、車両システムを評価するためのさまざまな手法が含まれます。

コンサルティングおよびトレーニング

監査および認証審査に加え、IDIADAはコンサルティング活動またニーズに合わせたトレーニングを通じて、ISO/SAE21434およびISO 24089と自動車サイバーセキュリティに関する理解をサポートします。



CONTACT INFORMATION

Headquarters & Technical Centre · L'Albornar - PO Box 20 · E-43710 Santa Oliva (Tarragona) Spain

For further details, please contact: [✉ info@idiada.com](mailto:info@idiada.com) [☎ T +34 977 189 360](tel:+34977189360)



www.idiada.com